

想いよ届け、争いのない世界へ

今年も修学旅行でヒロシマへ行くことは叶いませんでした。これまでの6年生は毎年、現地を訪れ、ヒロシマで起こった現実を目にすることで、世界で唯一の被爆国であることの実状を見つめ、決して二度とこのような悲惨なことを起こさないという誓いを新たにしてきました。しかし、コロナ禍によって実際にヒロシマを訪れるという学習ができなくなったのです。そんな意味でヒロシマに行くことができなかったことはたいへん残念に思います。

ただ決して、今年行った修学旅行の行き先が悪いわけではありません。素敵ななかまと最高の思い出づくりをするという意味においては、行き先がどこになろうとも実施できたことに感謝しなければなりませんし、今年の修学旅行もたいへん有意義で楽しく素敵な思い出となりました。

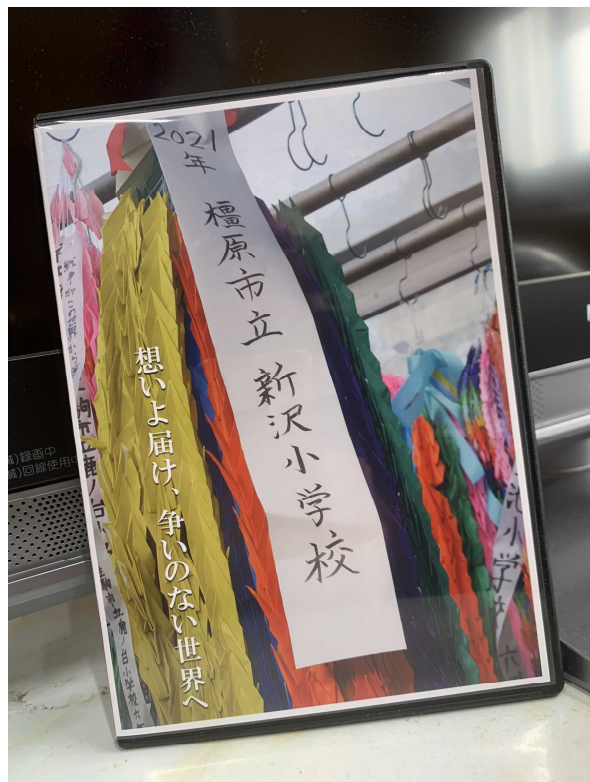
そんなとき、いつもお世話になっているツーリストのおじさんが声を上げてくれたのです。「みんなが思いを込めて千羽鶴を折ったなら、その千羽鶴をヒロシマに届けてあげよう」と。いつもお世話になっているカメラマンさんも、「それなら私も協力しよう。届けるところをカメラに収め、スライドにしよう。」と。こんな声を上げていただいたことをきっかけに県内の62校が、新沢小学校の6年生と同様に平和への誓いを千羽鶴に託し、ツーリストさんにヒロシマへ届けていただくことになりました。

県内から集まる相当な数の千羽鶴は、当然乗用車で運べるものではありません。新幹線に積み込めるような量でもありません。単なる荷物のようにトラックに押し込めて運ぶわけにもい

きません。でも、そこはツーリストさんです。バス一台準備し、大勢のスタッフさんが乗り込み、県内の小学生の貴重な思いのこもった千羽鶴をヒロシマまで大切に運ぶことになりました。ヒロシマ平和公園、原爆の子の像の前で、臨時にバスを停車させ、一つ一つバスから大切に千羽鶴を降ろし、順にお供えをしていきます。その作業は実に3時間半にもおよんだということです。新沢小学校の千羽鶴も大切にそして丁寧に お供えしていただきました。新沢小学校全校児童の思いをヒロシマに届けていただいたのです。

このことからみなさんはどんなことを感じたり、考えたりしますか？

目の前で誰かが困っていたとします。また、叶えることが難しそうな夢や希望を持っていたとします。そのことは直接自分に関係のないことかもしれませんが。見て見ぬふりをして通り過ぎたとしても、もしかすると誰にもとがめられることはないかもしれません。けれど、自分にできる何かを考え、一歩行動を起こすことで、もしかしたら何か動き出し、現実が変わっていく可能性もあります。大げさな言い方をすると、そんな行動の一つ一つの積み重ねこそが、本当の平和な社会を作る第一歩になるのではないのでしょうか。自分事として考え、相手意識を持って行動することの大切さを学んだような気がします。できないことを嘆くより、できることを一つずつ。そして、自分の得意とするところを最大限生か



しながら行動することをみんな集めるとそれはとてつもなく大きな力を発揮することにつながります。毎年小学生の修学旅行を見てきたツーリストさんとカメラマンさんならではの発想で、互いの得意とするところを最大限生かした今回の取組となりました。私たちの折った千羽鶴をヒロシマに届けていただきありがとうございましたという気持ちとともに、ツーリストさんとカメラマンさんの起こした行動を一つのモデルとしながら、今後の自分自身の行動のあり方へつなげて行って欲しいなと願っています。

昨日（2月1日）、奈良新聞社さんがこのことを取材に来られました。近々奈良新聞に掲載していただけるそうです。